

今週の感染症発生動向

◆ 感染性胃腸炎の発生は、さらに減少

◆ RSウイルス感染症が多発

★一類～五類全数報告感染症の発生状況（第51週）

- ・一類感染症---報告はありません
- ・二類感染症---結核 3名
- ・三類感染症---報告はありません
- ・四類感染症---レジオネラ症 1名（病型：肺炎型）
- ・五類感染症---ウイルス性肝炎 1名（病型：B型）

★定点把握の対象となる五類感染症の疾患別発生状況（先週との比較、定点当たり患者数）

下記グラフに示す19疾患の患者報告数は、先週(812名)より減少し、今週は694名となっています。今週、増加した疾患はRSウイルス感染症、ヘルパンギーナ等で、減少した疾患は、感染性胃腸炎、A群溶レン菌咽頭炎、インフルエンザ等です(週別発生状況については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。

また、インフルエンザ入院サーベイランスにおける、インフルエンザの入院患者1名の届出があり、草津保健所管内、6歳の女性でした。

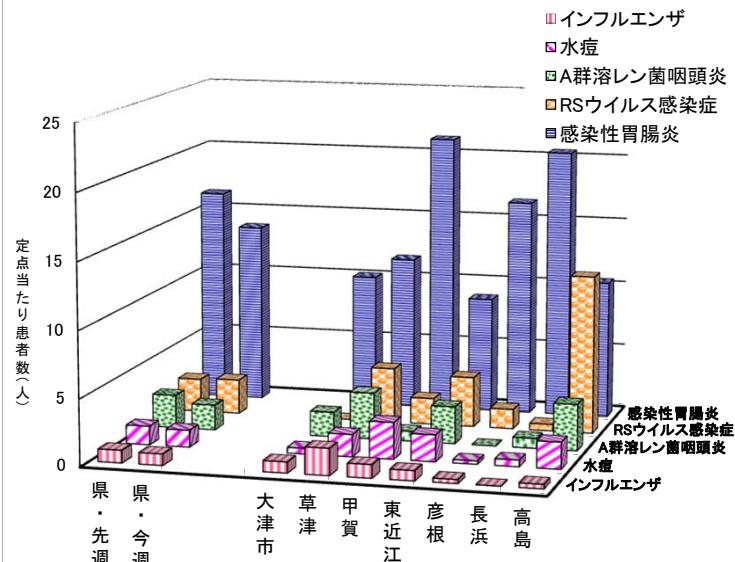
「感染症発生動向調査に基づく流行の警報・注意報システム」に基づく警報および注意報の発生基準値を超えた疾患および保健所管内は下記のとおりです。

警報---感染性胃腸炎(警報開始基準値 20、警報終息基準値 12) 甲賀保健所、彦根保健所および長浜保健所

A群溶レン菌咽頭炎(警報開始基準値 4、警報終息基準値 2) 高島保健所



上位疾患の保健所管内別発生状況(第51週)



県全体における上位疾患の発生状況は、①感染性胃腸炎、②RSウイルス感染症、③A群溶レン菌咽頭炎、④水痘、⑤インフルエンザの順に多くなっています。

感染性胃腸炎-----甲賀、長浜および高島保健所管内は、先週より増加していますが、その他の保健所管内は減少しています。

A群溶レン菌咽頭炎---東近江保健所管内で増加していますが、

その他の保健所管内では減少または横ばいとなっています。

インフルエンザ-----先週より少なくなり、草津保健所管内で1/2となっています。

RSウイルス感染症-----先週増加した草津および高島保健所管内では減少し、

甲賀、東近江および長浜保健所管内では増加しています。

1. 全数報告感染症(一類～五類)の累積報告数

滋賀県内の医療機関において、感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断した医師は、保健所に届出ことになります。このことを全数報告といい、滋賀県内で発生している一～四類および五類感染症の発生状況を把握することができます。

感染症類型	疾患名	平成24年累積報告数		平成23年累積報告数 ^(*1)		平成22年累積報告数 ^(*2)	
		滋賀 (51週)	全国 ^(*3) (51週)	滋賀	全国 ^(*3)	滋賀	全国 ^(*3)
一類感染症	報告なし	0	0	0	0	0	0
二類感染症	結核	252	28,047	338	31,467	251	26,866
三類感染症	コレラ	0	3	0	12	0	11
	細菌性赤痢	0	210	5	299	2	235
	腸管出血性大腸菌感染症	37	3,724	71	3,938	66	4,134
	パラチフス	0	21	0	23	1	21
四類感染症	E型肝炎	0	113	0	61	0	66
	A型肝炎	1	157	0	176	3	347
	オウム病	0	6	0	13	1	11
	つつが虫病	1	402	1	461	2	407
	デンゲ熱	1	218	1	104	2	244
	マラリア	2	72	0	78	0	73
	レジオネラ症	10	874	12	819	10	751
五類感染症	アメーバ赤痢	13	903	2	814	7	843
	ウイルス性肝炎	4	226	1	249	3	221
	急性脳炎	3	342	1	259	0	242
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2	179	2	136	2	172
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3	240	2	198	3	122
	後天性免疫不全症候群	9	1,372	6	1,523	1	1,553
	ジアルジア症	1	69	1	68	1	77
	梅毒	1	853	6	827	9	621
	破傷風	0	114	1	114	0	106
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	89	0	73	2	120
	風しん	12	2,294	2	374	5	87
	麻しん	1	292	1	443	1	447
動物の感染症	細菌性赤痢(サル)	0	1	9	37	0	59

* 1: 感染症発生動向調査事業年報暫定数(国立感染症研究所感染症情報センター、平成24年3月現在)。

* 2: 感染症発生動向調査事業年報確定数(国立感染症研究所感染症情報センター、平成24年3月)。

* 3: 全国の累積報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています(国立感染症研究所感染症情報センター提供資料参照)。

2. 定点把握の対象となる五類感染症の週別および保健所管内別発生状況

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症の発生状況を示します。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです。
(患者報告数=定点当たり患者数×定点数)

(1) 疾病別・週別発生状況(平成24年第46週～51週、11/12～12/23)



* : 平成23年9月5日からインフルエンザ入院サーベイランスが開始されたことに伴い、基幹定点からの報告数(定点当たり患者数)を掲載

(2)疾病別・保健所管内別発生状況(第51週、12/17~12/23)

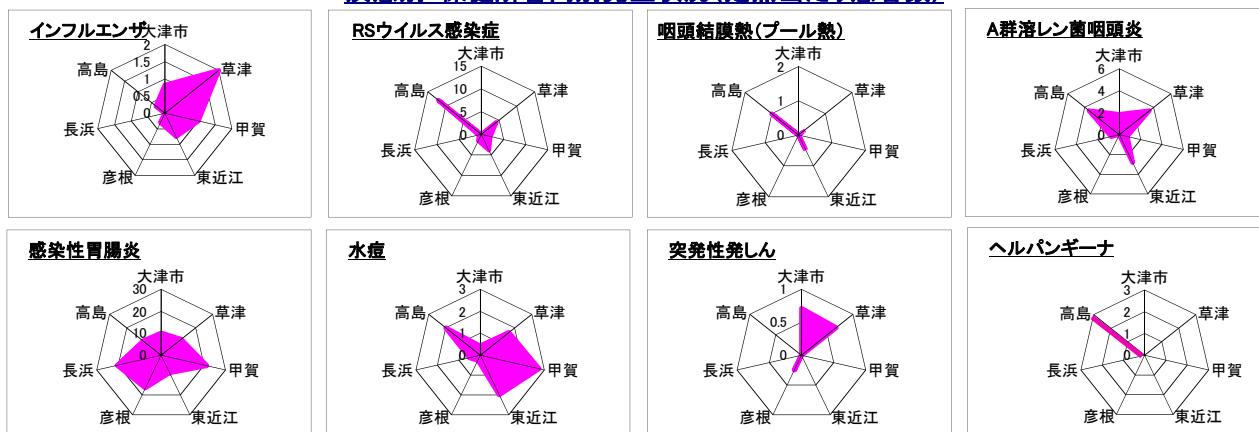
疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)							疾患別発生状況(県)	
	県	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	
インフルエンザ	0.85	0.82	2.00	1.00	0.75	0.29	0	0.33	■
RSウイルス感染症	2.63	0	4.17	2.00	3.80	1.50	0.50	12.00	■
咽頭結膜熱(プール熱)	0.16	0	0.17	0	0.40	0	0	1.00	■
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.91	1.86	3.50	0.75	2.80	0	0.75	3.50	■
感染性胃腸炎	13.72	10.14	11.67	21.25	8.80	16.50	20.50	10.50	■
水痘	1.28	0.43	1.67	2.75	2.00	0.25	0.50	2.00	■
手足口病	0	0	0	0	0	0	0	0	
伝染性紅斑(リンゴ病)	0	0	0	0	0	0	0	0	
突発性発しん	0.31	0.71	0.67	0	0	0.25	0	0	■
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	
ヘルパンギーナ	0.19	0	0	0	0	0	0	3.00	■
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0	0	0	0	0	0	0	0	
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
細菌性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
無菌性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
マイコプラズマ肺炎	0.29	0	0	1.00	0	0	1.00	0	■
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	
インフルエンザ(入院)	0.14	0	1.00	0	0	0	0	0	

赤・太字 は警報発生基準値(開始基準値または終息基準値)を超えていました。

青緑・太字 は注意報発生基準値を超えていました。

0 2 4 6 8 10 12 14
定点当たり患者数(人)

疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数)



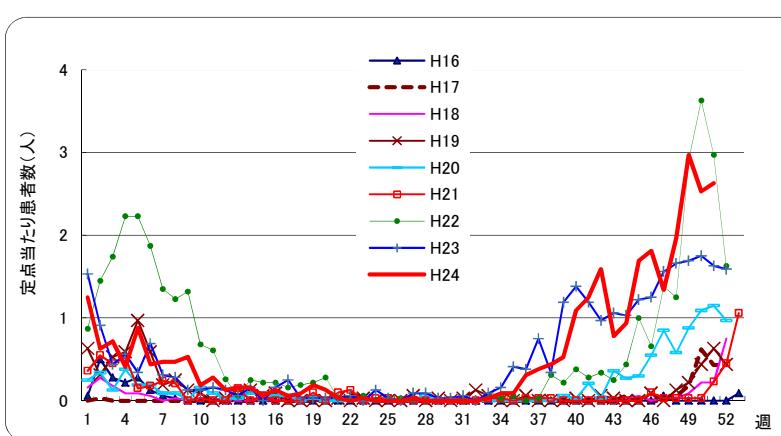
(3)今週の発生状況

- <水痘> 横ばいまたは減少している管内がほとんどですが、東近江では先週の約2倍の報告がありました。
- <突発性発疹> 大津市、草津および彦根から報告がありました。草津保健所管内は増加しています。
- <ヘルパンギーナ> 報告があったのは、高島保健所管内のみで、先週より倍増しています。

3. その他

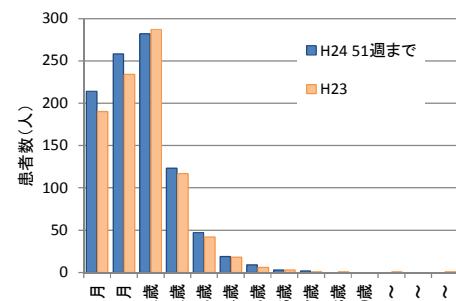
RSウイルス感染症の発生状況

滋賀県(平成16年～平成24年第51週、H13～H24.12.23)



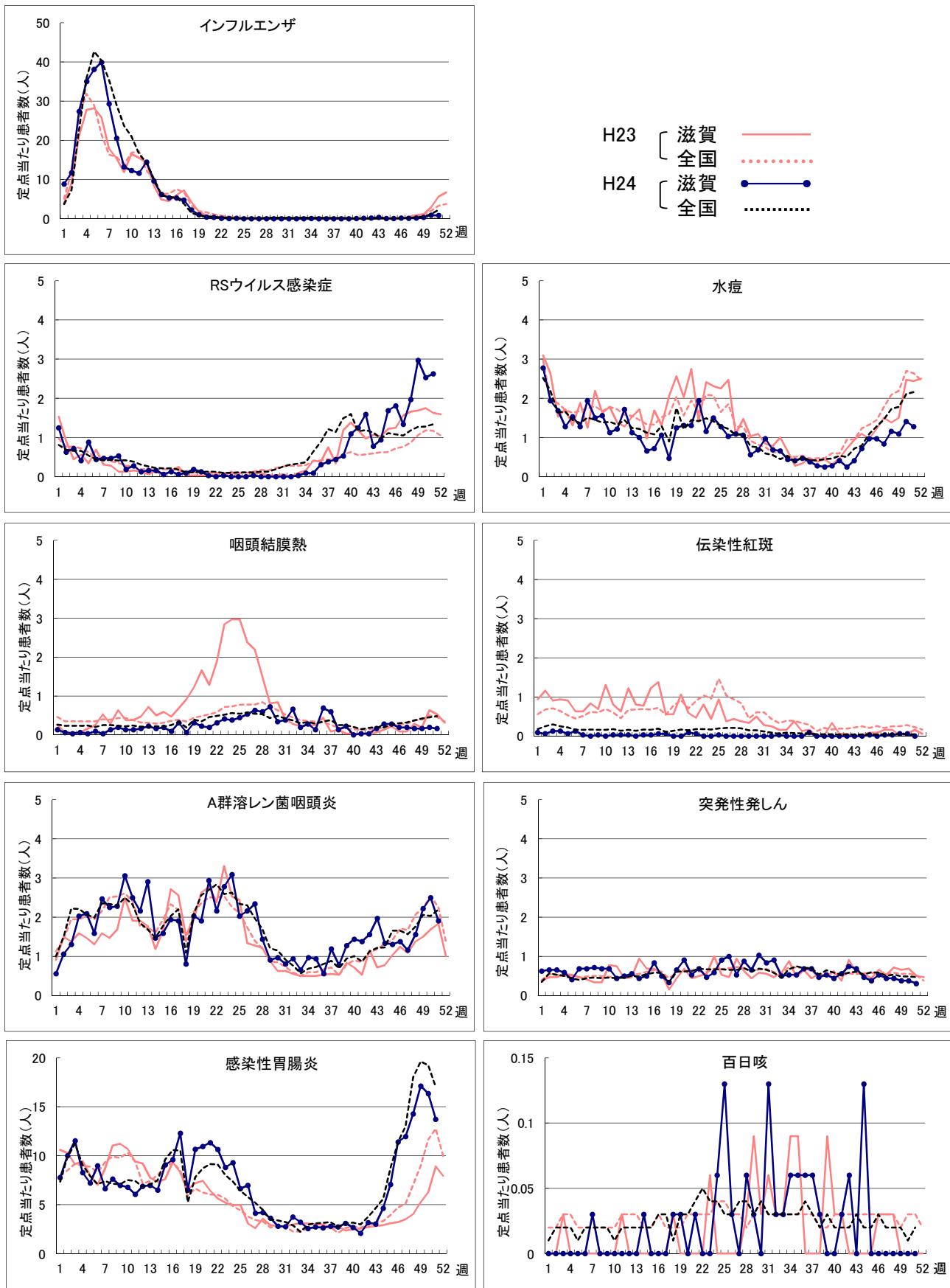
RSウイルス感染症の年齢群別患者数

滋賀県(平成24年第1週～51週と平成23年)



定点当たり患者数は、第50週 2.53(全国1.28)、第51週 2.63(全国1.34)で、全国よりかなり高くなっています。
年齢階級別では、0～1歳で78.8% (51週までの総数957人)、2～3歳で17.8%を占めています。また、平成23年と比較すると1歳未満で増加しています。

疾病別定点当たり患者数(平成24年第51週、H24.1.2～H24.12.23)



疾病別定点当たり患者数
(平成24年第51週、H24.1.2～H24.12.23)

H23 滋賀
全国
H24 滋賀
全国

